

移住就農

新規参入

研修制度



いとう かずひろ ともみ
伊藤 一弘さん・知美さん(井原市)

就農：2011 年（就農当時 44 歳）

新規就農研修：2009～2010 年

就農パターン：移住就農（東京都出身）

耕地面積：88.5a（うち借地 82a）

経営面積：ぶどう簡易被覆 66a、加温 13a

経営参画者：本人、妻、期間パート 1～2 人

**33 歳、酒米「強力」で作られた大吟醸酒に出会い、感動して酒の世界へ。
酒米栽培に携り、独立就農を考える中、岡山のぶどうに出会った。**

——就農のきっかけは？

前職の酒造会社（鳥取県）在職中、田植から稲刈までの間は派遣された酒米栽培農場で酒米栽培に携わり、冬は酒造りに取り組むというサイクルを 6～7 年続ける中で、農業の魅力に目覚めた。

——前職の経験は活かしている？

鳥取県の酒造会社で在職中に携わった酒米栽培での経験で、農業に関するひとつおりの基礎知識、技術を習得していた。

——岡山（井原市）を選んだ理由は？

それまでの経験から、まずは鳥取県で水稲栽培での就農を目指したが、農地、収益性等就農条件が整わなかった。そこで次に全国の新規就農支援策を調べてみると岡山県の研修制度がしっかりしていることが分かり、県の説明会に参加した。県が強力に推進し、かつ高い収益性が見込まれるぶどうに焦点を絞り、県内各地のぶどう産地を訪問する中で、井笠地域の普及指導員との縁で井原市の研修に参加し、家族との相談の結果、美星町を就農先として選定した。

農業を本当にやっていけるのか？この不安に対し、受入農家の計らいで、1 か月間の体験研修の間に地域の色々な農家さんに教わる機会を設けてもらったほか、出荷時期の選果場で地域のほぼすべてのぶどう農家さんと知り合うことができ、出会い・励ましを受けた。農業体験研修はとても楽しく過ごすことができ、美星に移住する不安が小さくなった。

——就農候補地として、他県も考えた？

鳥取県をはじめ全国を対象に候補地探しを行い、条件を比較した結果、最終的には岡山県を選択した。岡山県では、空きほ場があるとの情報をもらった西大寺地区と、普及指導員から産地情報をもらった美星町の 2 か所に絞り込んだが、やるなら一からと美星町に決めた。

——「ぶどう」を選んだ理由は？

栽培作物、就農条件、収益性等様々な面から検討し、県の推進品目であるぶどうに興味を惹かれ、選択した。高単価であることも魅力で経営計画が立てやすかった。

——就農で苦労した点と解決方法は？

【農地】

研修期間中にタイミングよく、成園の借手を求めている方がおられ、就農後に借りることができた。また、受入農家が近所の元桃園の荒廃地を押さえてくれ、「園地はある」と紹介してくれた。部会・JAの協力により、新植用の園地として再整備していただき、ブドウ棚も部会の助力で業者を頼まずに設置できた。

【資金（経営・生活）】

自己資金の準備は必要。新植園の育成期間中は収入が少なく苦労した。国の給付金制度を活用し、車庫を出荷調整施設へ改修する資金として利用した。

【栽培技術】

研修期間中、受入農家だけではなく他の生産者の方のほ場でも作業を体験することができたのが勉強になった。ハウスを導入して労働分散体系をとっている。

【住宅】

面倒を見てくれた頼れる受入農家に農家住宅を紹介してもらい購入した。子育てと出荷作業の両立のため、住むところを選ぶのはとても重要と感じている。

【機械・施設の準備】

資材を置くスペースの確保も考えておくこと。農作業機械、出荷コンテナ等、必要なものは思っている以上に多く、出荷量増加に合わせて出荷作業場を変えていく必要がある。

——計画と現実のギャップはあった？

時間に追われる。人手不足。想像以上に体力的にきつい。腰も酷使することになり、ぎっくり腰にもなった。

——地域への適応、順応に苦労した点、気を付けた点は？

面倒くさいことを嫌がらない。あまり断らない。わがままと思われたり、面倒くさいんだろうと思われたりしないように心掛ける。

——今後やりたいことは？

ハウスが増えてきたので、スマート農業（自動化、自動換気等温度管理など）に興味がある。2年前にポケット Wi-Fi を使ってマイコン温度通知システムを自作した。今後、プログラム言語も習得して、ハウスの自動巻上装置なども自分で作ってみたい。

——経営目標は？

8 桁農業（売上 1000 万円）を目指せと言われて、やってきた。借りた園地がそろそろ改植になるのもう一棟ハウスを建てて将来に向けて準備したい。品種も多くなっている所以で労力分散も考えて。

——農業のやりがいは？

自分で考えてできるし、自由であること。常に自分で考えるようになった。時間には追われるけれど縛られないし、自分で考えて時間のきまりをつくれる。

——産地に入るメリットは？

一般企業から酒造会社に転職したとき、社会保険など、自分のセーフティガードがないことに気づき、怖いと感じたことがある。酒造会社でも株式の会社に入ったほうがよいと思った。農家で独立するときも一人ではダメだと思った。しっかりした組織があって、バックアップがあって、というものがないと、一人だと弱いと思う。行き詰ったときに助けがないのは不安。今まで

部会にはすごく助けられているし、JAはすごく便利だし、共済でも自分が気付かないところをアドバイスしてくれるし、先輩農家はいろんなことを知っているし、それがあって安定できる。自営でやっているけれど、個人じゃないんだ、と思う。

——今の産地の魅力は？

ぶどう部会や近所まわりは、いい人に恵まれている。自治会の活動も苦にならない。環境もよい。作業の種類が多いこと、粒間引きに技術が必要なこと、習得しなければいけないことが多いが、それだけ自分の身につくということ。まわりと仲良くなればいろいろな事がよく思える。井原市は青野も芳井もぶどうが盛んだから身近に広く見ることができるのはよいと思う。

——印象的なエピソードは？

10 何年やってだいたい経験したのかなと思っていたが、毎年次から次へと「まだ経験がたりないのかな」と思うことが起きる。今年は袋を外すとボロボロっと脱粒する事象が初めて生じた。去年は灰色かび病が多発したし、その前には晩腐病でぼこぼこにやられた時もある。台風が来てビニールも飛ばされたし、獣害も発生するし、べと病やさび病もすごく出たし、だいたい経験したのではないかと思っていたが、まだ新しいことが起きるか、といった感じ。何だかんだいって、「やっぱり経験値だよ」と先輩農家から諭される。経験の長い人にはそれだけの蓄積があるといわれて、ひしひしと感じている。

——後進へのアドバイスは？

自己反省を踏まえ、早い段階で、労力の分散を考えた品種や施設栽培に取り組めば

よい。ピオーネだけで 70 本は集中しすぎた。分散が必要。

頼れるところは頼る。自分の場合は、農地や住宅等の面倒を見てくれた頼れる受入農家が存在したので、その面は甘えさせてもらい、新しい地での生活に慣れる事だけに集中させてもらうことができた。

——就農前の自分へのアドバイスは？

まわりとの人間関係、うまく溶けめるかについて不安を持っているけれど、急いで人間関係をつくろうとしなくてもいいよ。一つ一つ誠実にちゃんとしていれば、集落行事などにも断らずに参加するだけでも大丈夫。それまで、目を合わせたただけの人でも、5年たって初めて声をかけて、初めて会話するという事もある。

——私の一文字

「瞬」。

振り返ると一瞬だった。



共同選果場